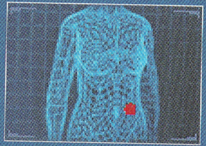
STORY 5-6

手術No28

カドゥケウス感染

患者 明神さやか

TIME LIMIT 05:00:00



小腸上部付近に発生した、ギルス「パラスケヴィ」の駆逐を行なう。パラスケヴィは体内に入ると真っすぐに心臓を目指して移動をし命を奪う。心臓部へ達するまえに摘出を行なわなければならない。そのままの状態での摘出は不可能なため、摘出できる大きさまで切り刻んでから摘出をすること。

1 裂傷の縫合

3つの裂傷を縫合し終えると、パラスケヴィが出現する。

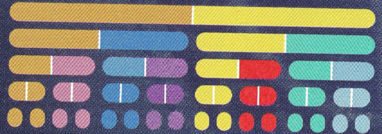
2 レーザーで尻尾を照射し動きを止める

パラスケヴィは小腸から移動を開始し、胃、肝臓と体内を上り、心臓まで移動する。心臓に達してしまうと処置を行なう時間はほぼ皆無。肝臓での処置が最後と考え手術を進めていこう。

3 メスでパラスケヴィを切断

パラスケヴィの動きをレーザーで止めると、切断可能な状態になる。下図のように切断を繰り返し、摘出できる最小単位、16分の1の状態まで切断していくことになる。

■パラスケヴィ切断図



処置の手順としては、むやみに切断して動き回るパラスケヴィの数を増やすのではなく、■の部分を切断し摘出まで持ち込んだら■を、■を摘出したら■、■、■、■、■、■の順で切断、摘出を行なっていこう。

4 ピンセットでパラスケヴィを摘出

パラスケヴィを摘出する際も、レーザーで動きを止めてから行なうこと。



2a
パラスケヴィの尻尾にレーザーを当てることで、短時間ではあるが動きを停止させることができる。



2b
パラスケヴィは動きだすと体色が青色になり、レーザーで動きを止めると黄色に変化する。



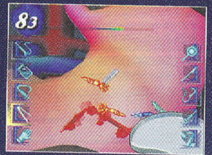
3a
最初に切断したパラスケヴィの残り2分の1は胃へ逃しておく。術野に動き回る存在を少なくしよう。



3b
切断すると裂傷が発生するが、縫合よりも小腸に残した2分の1を逃さないことを優先しよう。



3c
逃さず、とはいえバイタルの回復をしないわけにはいかない。回復剤は動きを止めてから打つこと。



4
16分の1の状態まで持ち込んだら、レーザーで完全に動きを停止させた状態にしピンセットで摘出。

STORY 5-8

手術No29

小さな悪魔

患者 村山義男

TIME LIMIT 05:00:00



未知のギルス反応を確認。裂傷を起こし、体内から出現する虫のようなギルスをレーザーで焼却していく。ただし、この虫のようなギルスが5体以上腹膜上にいると合体し、一回り大きな青いギルスを発生させる。この青いギルスはバイタルを激減させるので、虫のようなギルスを4体以下に抑えつつ駆逐すること。

1 裂傷の縫合

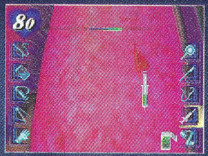
裂傷を2本残した状態で、バイタルを99まで回復。裂傷の残りが1本になると、その傷口から虫のようなギルスが出現する。

2 レーザーで青いギルスを焼却し、裂傷、レーザー痕を治療

最初の1本から出現したギルスを焼却し、裂傷の縫合やレーザー痕の治療が終わると、新たな裂傷発生と同時に傷口からギルスが多数出現する。このギルスをレーザーですべて焼却していくのだが、裂傷はつぎつぎと6本発生する。6本発生すればそれ以上ギルスが増えることはないので、レーザーが切れるまで焼却を続け、補充のあいだにバイタル回復を行なおう。ただし、5体以上のギルスがいる状態だと、ギルスは合体をはじめ青いギルスを発生させる。青いギルスはバイタル低下の大きな要因となるが、発生しても虫のようなギルスを優先して駆逐すること。なお、合体中のギルスは焼却することができない。



1
最後の1本から出現するギルスは5体。縫合後、傷口付近にレーザー照射の準備をして出現を待とう。



2a
最初に出現したギルスを焼却し、縫合が終わると、ギルスとの5連戦がはじまる。縫合まえに回復を。



2b
裂傷が発生するのは写真の5ヵ所。発生の順番は固定ではないが、アタリづけとして覚えておくといい。



2c
ギルスが合体した状態になると、レーザーは効かなくなる。散開を待ちながら、回復を行なおう。



2d
合体後に発生する青いギルス。ギルス焼却時に比べ、照射しなければならないレーザー量が多い。